

② 指導援助のポイント

- a 級友のよさを見つめるための機会として、アンケートを実施する。アンケートは生徒の実態を考慮して、日常の生活行動に見られる「よさ」を項目として自作した。(表Ⅲ-1参照)
- b 効果的な指導援助を行うために、生徒一人一人の資料を精選し、カードにまとめて生徒理解に活用する。
- c 一人一人のよさを認めるという基本的な姿勢で生徒一人一人と教育相談を実施する。

③ 実践の経過

実践した指導援助の具体的な内容・方法については、「指導援助の流れ」にそって以下に紹介する。

a 級友のよさの発見アンケートの実施

表Ⅲ-1 質問紙「級友のよさを見つけよう」

あなたが選んだ友人の良い点とは
級友の「よさ」を見つけよう！

2年生になって半年が過ぎました。初めはまったく話をしなかった人たちとも、今までのいろいろな活動や学級生活を通して親しくできるようになったと思います。人間は良い点があれば悪い点もあり完全な人間といえる人はいません。しかし、相手の欠点を指摘したり、悪い点だけを見ていたのでは人間関係はくずれるだけです。お互いが安心して生活できる学級、よりまとまった学級にするため、お互いが慣れてきた今、友達の良い点を改めて見つめてみましょう。以下の項目を読んで、よく当てはまるときは○、まあまあ当てはまるときは○を、何人でもいいですから書き入れてください。自分の欄には一線を引いてください。項目の空欄には自分で何か好きな項目を作って選んでみましょう。

項目	朝の登校が早い人	掃除を早く終わらせる人	誰かが困っているときに助けてくれる人	決まった約束を守れる人	自分の机をきれいに保てる人	この授業でよく発言する人	いろいろなことを知っている人	いろいろなことを話せる人	いろいろなことをやる人	いろいろなことを考える人	いろいろなことをやる人	いろいろなことを考える人	いろいろなことをやる人	いろいろなことを考える人
1														
2														

ア アンケート作成上の留意事項

表Ⅲ-1のように、設問作成に当たっては、生徒の抵抗感を少しでもなくするために、わかりやすい表現になるように心がけた。

イ アンケートの意義

- ・級友一人一人の「よさ」について見つめ考えさせることができる。
- ・結果を集計することによって、個々の生徒の学

級からの「認め」を量的に把握できる。

ウ 実施方法及び処理

学級活動の1時限を使用して実施する。

実施を前にして、「学級の一人一人には必ずよいところがあるはずで、それを発見するために真剣に考えてみよう」という説明を加えた。

実施後の集計では、各項目ごとに◎を2点、○を1点とし、結果は表Ⅲ-2のように一覧表にまとめた。

表Ⅲ-2 よさのアンケート結果集計表

番号	氏名	性	計	清掃態度	登校時刻	言葉遣い	明る
1		男	111	9	13	11	
2		男	34	4	1	6	
3		男	101	14	9	11	
4		男	45	5	2	3	
5		男	65	1	1	9	

エ アンケートの結果と活用

一覧表に表れた結果は、予想とは異なり、以下の通りであった。

- ・全員に、学級からの認めがあったこと。
総合での認めは、最低で21点、最高で123点に達した。(10項目40名中)
- ・上・中位群より下位群の生徒の方が認めの量が多いが、それに気づいていないこと。

アンケートの結果は、教育相談など、個別の指導援助の資料として活用した。また、学級への全体指導の一環として、学級活動の時間に担任の感想を含めて、結果の全体傾向を伝えた。「私たちの学級には、多くのよさの認めが存在し、しかも、全員がその認めを受けているという、すばらしい学級である。」という内容は、生徒たちには大きな驚きと喜びを与えた。

「もっと学級を明るくし、お互いのよさを認め合う雰囲気を強めるために、担任が見た一人一人のよさを、個別に教育相談によって伝えたい。そして、自分自身や級友のよさについていっしょに考えよう。」という教育相談の実施を予告した。